

## 地域・学校づくり部会

高木 勝正

### 子どもも教職員も生き生きする学校をめざして

職場の多忙化によって、子どもも教師も生き生きする学校づくりが難しくなってきたり、部会も単発的になつてしまつていますが、皆さんのご協力で続けています。

管理職ですら「スクラップ&ビルドなのに、ビルドばかりなんだよね」と愚痴を言つたり、若い先生たちが「上から（仕事）降ってくる」と言つたりするほどゆとりがなくなつた学校現場。しかし、そんな中でも積極的に学校づくりをしている報告をもらいました。

二月には墨田区の小学校の、保護者の参加・協力のもと、食育を通して学校づくりをしてきた報告がされました。キムチ作りや味噌作り、さまざまな取り組みをしてきて行事として定着しているもの

も出てきているとのことでした。討論の中で話題となつたのが、異動で人が替わりと数年続いた行事でもパタリとなくなつてしまうことがあることでした。学校として定着するためには、一人でなく仲間と一緒に取り組むように広げ、後に残る人にバトンを渡していくことが必要であり、今後の課題となりました。

七月には、小中一貫校の教育について、S区の先生に報告をしてもらいました。開校当初は、小学校の卒業式は行うものの、小中九年間を小1〜4・小5〜中1・中2〜3の三段階に分けて捉え、小中合同の行事を行う計画がすでにできていたようです。しかし、学校選択制があり、十分な理解を得られたい言いは難しい統廃合も絡んだ小中一貫校の立ち

上げということで、教育課程や学校行事も苦労が多かつたようでした。この報告でよかつたこととして学べたのは、教職員の話し合いの結果、発達段階を越えて無理に小中をいっしょにさせるような計画は見直していき、次第に落ち着いた学校になりつつあるという点でした。一方的な上意下達で済ませる管理職ではないことも含め、教職員の協働で学校づくりを行うことの大切さを確認できました。

教職員・保護者・地域の協力によるものであつた学校づくりが、行政の意向をすべて受け入れた管理職の方針と数値目標に従うことに変えられてきている感じがします。十月には教育委員会改革の動きについて、共同研究者の荒井さん（首都大学東京）からお話を伺うことになっています。

不定期開催ですが、たくさんの方の参加と子どもも教職員も生き生きしている学校づくりの実践報告をお待ちしています。

（墨田・梅若小）